

熊本矯正歯科学研究会

NEWS LETTER

2014年 第1号(春季)

事務局:おにき矯正歯科クリニック内
〒861-4172 熊本市御幸笛田 1-9-38
TEL 096-334-8211 FAX 096-334-8210
E-Mail yasu1015@hyper.ocn.ne.jp



熊本矯正歯科学研究会講演会 (H25. 11. 16 アークホテル熊本)

ご挨拶

熊本矯正歯科学研究会 会長 伊東隆三



平成 26 年度、春季第 1 号 (通巻 7 号) の NEWS LETTER を会員の皆様にお送りできますことは、河野賢二広報担当常任理事はじめ各役員の先生方のご尽力によるものと感謝申し上げます。

熊本矯正歯科学研究会会長に就任し 5 年目を迎えます。本来であれば会長は 2 期 4 年の任期となっていますが、昨年の会長選挙に立候補者がいなく、やむなく総会で推挙されて、もう 1 期会長を務めることになりました。役員、会員の先生方のこれまで以上の御協力をお願いする次第です。

これまでの熊本矯正歯科学研究会の活動状況につきましては、NEWS LETTER やホームページをご覧くださいとお待ちしております。

会長就任時に申しあげました事項につきましては会員の皆様のご支持と御協力により各事項ともに順調に進捗していると考えております。

昨年 11 月 16 日に開催されました本研究会講演会では特別講演として東京医科歯科大学大学院咬合機能矯正学分野小野卓史教授をお招きし「早期治療の意義を再考する」と題し素晴らしいご講演をいただきました。神経生理学・臨床生理学的観点から顎口腔機能の障害と回復、健全な発育に対する早期治療の意義についてご講演され、会員一同大変参考になり、明日からの臨床に役立つものと感謝申し上げます。

ところで、顎の狭小化による叢生の発現が懸念されている中、3 歳から 6 年生ぐらいまでの児童を対象に①矯正歯科学的な歯科検診、②噛むことの重要性とカムかむ運動の指導、③食育のための親子教室などを行う計画を立てておりましたが、なかなか軌道に乗らず停滞している

状況です。フッ素洗口による虫歯予防については国民・県民に周知されてきましたが、噛むことによる顎の発育の重要性やや不正咬合との関係についてはほとんど理解を得ていないのが現状です。日常臨床では、子供のむし歯は激減していますが、顎の狭小化に伴う叢生の発現が憂慮され、矯正歯科専門医はじめ小児歯科、歯科医師会、行政を含めて顎の発育への取り組みが喫緊の課題であると考えております。「かむカム」運動などを通して啓発活動を進めていかねばなりません。この計画の実施に対しまして会員の先生方の絶大なる御協力をお願いする次第です。

さて、平成 26 年 6 月 8 日（日）に行われます熊本市歯科医師会主催の「歯の祭典」では、熊本矯正歯科研究会の先生方による矯正相談が行われます。ここ数年、お母さん方のアゴの発育に対する意識の向上、歯が並ばないのではないかと心配から多くの相談者がみえられます。多くの会員の先生方に参加していただき、不正咬合の治療や噛むことの重要性についてお話しいただき、お母さんたちが虫歯撲滅に貢献されたように、今度は不正咬合の予防に立ち向かっていただけるように啓発していかねばと考えております。

ところで、平成 28 年度に第 12 回九州矯正歯科学会学術大会を、熊本支部を兼ねています熊本矯正歯科研究会が開催することになります。現在のところ平成 29 年 2 月開催となりますので、本年秋の臨時総会では実行委員会を立ち上げることとなります。学術大会の成功に向けて会員の先生方のご支援をお願いいたします。

今後とも熊本矯正歯科研究会のさらなる発展のために会員の先生方のご尽力、ご協力をお願い申し上げます。

平成 25 年度後期の主な活動

○ 常任役員会・理事会から

本会は、常任役員会を定期的に開催して研究会が会員にとって有意義なものとなるように講演会の準備や会の運営など伊東会長を中心に協議しています。

今年度後期は、当初より伊東会長の任期終了に伴う次期会長選挙を厳正に行うため、選挙規定の作成から、選挙管理委員会の立ち上げなどを行ってきました。また、以前からの議題である学校健診における矯正歯科健診の導入やそのガイドライン作成を目指して取り組んでおります。現在、試験的な導入を玉東町で実施できるよう地区職員の方々と協議を行っております。

また長期的な検討事項としては、平成 28 年度に開催予定の九州矯正歯科学会熊本大会の準備などを検討していく予定です。

本研究会がより有益な会になるには、会員の皆様のご協力が必要です。今後共ご意見、ご要望など提案して頂ければ助かります。どうぞよろしくをお願いいたします。

今年度後期の理事会は、平成 25 年 11 月 16 日に第 4 回理事会、平成 26 年 1 月 27 日に第 5 回理事会が開催されました。理事会の内容は以下の通りです。

（平成 25 年度第 4・5 回理事会主旨）

1) 報告および審議事項

- ・ 現在の会員数は 94 名です。
- ・ 会長任期満了に伴う次期会長選挙は選挙管理委員会のもと公正に行われましたが、立候補者が不在という残念な結果になりました。会則 11 条第 2 項に基づき 2 年間は現会長が職務を継続することが決定いたしました。
- ・ 日本矯正歯科学会代議員の選挙が行われ、鬼木泰久常任理事が就任いたしました。
- ・ 本会が代行している九州矯正歯科学会の熊本支部の支部長を伊東隆三会長が行うことになりました。
- ・ 平成 29 年 2 月に開催予定の九州矯正歯科学会の熊本大会について、平成 27 年 2 月ころに実行委員会を設置する予定です。
- ・ 春の講演会について：平成 25 年 5 月 17 日に予定している春の総会・講演会の演者は石川博之・福岡歯科大学矯正学講座教授に決定しています。
- ・ 「2014 歯の祭典」について：6 月 8 日のウェルバル熊本にて熊本市歯科医師会主催の「歯の祭典」が予定されています。例年通り本会が矯正相談コーナーを担当します。毎年、矯正歯科相談のコーナーには多くの相談者が来場され、本会から 9 名の先生に出務していただく予定です。ご希望の方は執行部までご連絡ください。
- ・ 本年度は 12 月の理事会を開催いたしません。※代わりの理事会は、10 月の講演会後に行います。

2) 議 題

- ・ 症例相談会について：講演会と同時開催している症例相談会は希望者が少ないため、今後の運営について協議しました。今後は、希望者がいるときのみ開催とし、会員発表を順番に行うことを検討していきます。
- ・ 本会ホームページの更新について：ホームページの管理に年間 12,000 円と内容変更各 1,000 円の経費がかかっている。当面はこのままで運営し、今年度中に意見をまとめる。
- ・ 会費未納会員の退会について：2名の退会の申し出がありました。未納分については再入会する場合に請求することとなりました。

○ 平成 25 年度熊本矯正歯科研究会臨時総会

平成 25 年 11 月 16 日（土）にアークホテル熊本にて臨時総会を開催いたしました。総会に先立ち、7 月 23 日に御逝去されました会員の緒方ゆりや先生の黙祷が行われました。出席者は 15 名、委任状提出 44 名で、総会員の 1/2 以上であり成立いたしました。総会では、次期会長（平成 26-27 年度）を伊東隆三先生が引き続き行うことと、選出された澤木先生と徳永先生が監事に就任することが承認されました。

○ 平成 25 年度 秋の講演会と忘年会

平成 25 年 11 月 16 日に秋の講演会と忘年会が開催されました。講演会は東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 咬合機能矯正分野教授の小野卓史先生に講演していただきました。忘年会は会員の先生のみでなく、小野卓史先生、歯科関連業者の方、スタッフの皆様方など多くの方にご参加いただきとても盛り上がりました。ありがとうございました。

秋の講演会 「早期治療の意義を再考する」 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科咬合機能矯正分野教授 小野卓史先生



（抄録）かつて早期治療の有効性が喧しく伝えられ、不正咬合を有することも抱える親は挙って矯正歯科医を受診し、治療は早く始めたほうが良い、と信じられていた時代があった。しかし、近年、チンキャップを始めとした Orthopedic force の長期予後しかり、様々な学会誌には早期治療の有効性に関する検証論文が数多く掲載されている。確かにエビデンスは何か、と問われれば、臨床を行う上でのベースとなる知識を語り継ぐ Narrative-Based Medicine (NBM) は、印象的な記憶や経験によるバイアスがかかるということからお呼びでなく、ランダム化比較試験 Randomized controlled trial (RCT) を中心とした Evidence-Based Medicine (EBM) が求められるのが必定であろう。しかしながら、どちらかに偏った見方が正しい、あるいは誤っているのではなく、問われているのは、情報を積極的に得て正しく理解し偏見のない鑑識眼的思考を用い、吟味する能力ではないだろうか。本講演では、主として神経生理学・臨床生理学をバックグラウンドとしたデータを紹介することで、顎口控機能の障害と回復、健全な発育に関して参加者自身が早期治療の意義を今一度立ち止まって考える機会となることを願う。

（感想）早期治療は、歯科医師によって非常に考えが違います。臨床では、顎成長や歯に悪影響を及ぼすような場合は積極的に早期治療を開始します。一方で、早期から管理しておけば良さそうな場合でも、比較的軽度であれば治療の長期間化による患者負担などを考えてしまい躊躇することもよくあります。そのような中、バックグラウンドとしての早期治療に対するデータがあれば、矯正歯科医も患者にとっても非常に有益だと思います。小野先生におかれましてはご多忙中にも関わらず、大変貴重な講演をしていただきありがとうございました。

今後の予定とお知らせ

- ・ 平成 26 年 5 月 17 日（土）にアークホテル熊本で平成 26 年度熊本矯正歯科研究会の春の講演会を行います。懇親会も予定しておりますので、スタッフの方もお誘い合わせの上ぜひご参加ください。※講演時間 18：00～19：30（会員及び学生は無料、非会員 2,000 円）
春の講演会：「成長期の矯正治療の意義を再考する」石川博之先生（福岡歯科大学成長発達歯学講座矯正歯科学部門教授）

忘年会スナップ



NEWS LETTER は、ホームページからもご覧いただけます。
熊矯ホームページは、 <http://kumakyouseiken.com/> です。